

---

# Muv-Luv Future of Struggles

水連寺 志在

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

M u v - L u v                      F u t u r e   o f   S t r u g g l e s

### 【Nコード】

N 0 5 6 8 Z

### 【作者名】

水連寺 志在

### 【あらすじ】

1974・07・06 : 米国、人類初の戦術機F-4【ファントム】を実戦配備。補助兵装としてCIWS-1（65式近接戦用短刀）、CIWS-2（74式近接戦用長刀）、WS-16c（突撃砲：105mm滑腔砲・20mm機関砲）を同時に採用。それに携わった兵士達の物語。

## まだ恐怖を知らない人類（前書き）

正直どこまで行けるかわかりませんが、お付き合い願います。

## まだ恐怖を知らない人類

「暑い！暑い暑い暑い！！！」

「黙ってください」

「暑いんだよ！助けてくれよ」

とある陸軍兵が整備兵に駄々をこねている。

「9月ってこんなに暑かったっけ？」

「まだ上旬ですし、それに戦術機のエンジンテストが真横で行われているわけですから」

「それもそうか……。そりゃ暑い訳だ……」

人類に敵対的な地球外生命。縮めてBETA。それがついこの間、7月6日にバイブと呼ばれる巣を落とした。その殲滅作戦にこの陸軍兵は参加し、多大なる戦果をあげた。

その結果として人類初の戦術機のテストパイロットとして任命されたのだ。

「あなた、テストパイロットに任命されたんでしょ？もっと自覚を持ったらどうですか、陸軍・最高・司令官殿」

「救世主としての自覚ならアリアリだぜ？」

「あなたのその無駄な自信はどこから来るんですか……」

「熱いハート！燃え上がるスピリット！そしてさらに！」

陸軍兵はあたかもボディビルディングの様なポーズを取る。

「余計暑くなるからやめてください」

「なんだって！？これからがいいところじゃなイカ！」

「それより、時間良いんですか？」

整備兵に言われて、懐中時計を確認する陸軍兵。

「まずい！強化装備の試着の時間だ！！」

「早く行ってくださいよ。間に合わなくなっちゃいますよ？」

「おう！じゃまた、遊びに来るぜっ！」

手を振りながら駆け出す陸軍兵。

「はいはい。もう二度来ないでくださいってもう居ないし」

整備兵の嘆きは陸軍兵には届かなかった。

# 試着とマイクロミラーター（前書き）

通過儀礼の誕生の瞬間

## 試着とシミュレーター

カナダにパイプが落ちてから早2ヶ月。それでいてもう戦術機は完成間近なのである。

「大尉、こちらに着替えてください」

「うい」

それはやはり、前々から準備があったからだろう。戦闘機は急な旋回ができない。戦車は小回りは効くが正直、あのBETAの速さには追い付かない。

「前面が若干透けてるな……。なにこれエロい」

「仕方ないですよ。機体とのデータリンクと動きやすさを重視したらこうなってしまった訳ですし」

そこで、人形決戦兵器として、戦術機となったのである。

「……でどれくらいかかった？」

「47分28秒ですね」

「まあ、最初だから仕方ないってのも有るが、もっと着やすくできないの？」

「それは今後のデータ次第ですよ」

「ま、それもそうか」

「それではシュミレーション室へ」

「了解」

戦術機の中なんでもっと簡素かと思われるが、まだ初期とはいえそれなりに複雑だった。しかし、簡単にいえば、シート、レバー、ペダルしかない。

「モニターは？」

「リンク機能で網膜投射になります。機体のメインカメラで見た映像に幾つかの情報が加わる仕組みです」

「あいわかった。じゃあ、シュミレーション始めてみようか」

「了解。システム起動」

ゴウンゴウンと音を立てて動き出す。

陸軍大尉が瞬きをすると、一瞬で街の景色が映った。

「網膜投射はいかがですか？」

「視界良好だ・・・すげえ・・・」



『シミュレーションなので仮想空間ですが、満足していただけなら結構です。』

仮想空間は一般的なビル街だった。本人にはまるで目の前に有るように見える。

『では、歩行より始めます。動作は全て自動です』

「了解した」

『状況開始します』

戦術機は一步、また一步を着実に歩み始めた。

「うわぁ!!なんだってんだ、この揺れは!」

『わかってたから貴方をテストパイロットに任命させていただきました。大尉ならこのくらいの揺れはたいした事ないでしょう?』

「貴様ぁ!謀ったな!?!」

『適材適所と行ってください』

テストパイロットの陸軍兵こと、レインスボルフ・アルベレート大尉は豪快な人柄と、彼の異名である「12時間高機動車の中でも寝転がって読書ができる男」としてとて（主にテスト的な意味で）人気な兵士である。

『次は水平噴射跳躍です。Gに気を付けてください』

「まで！間に走行は無いの うおっ！？」

戦術機の腰部に有るスラスタが火を吹き、機体が一気に速くなる。

「ふわふわした感覚だ」

『浮いてますからね』

「あと、Gが凄いで」

『そこでペダルを一気に踏み込んでください』

「こっか？」

ぐいっ。

機体が上方斜め前に浮く。

「うおおおー！？」

『うまい具合にバランスを保ってください』

「無理だ！初見だぞ？できるか！！」

『あ』

「うわああああー！！」

機体が一気に後方宙返りをする。

そのままバランスを崩しビルに激突した。

『言ったじゃないですか・・・状況の報告を』

「・・・各部に甚大な損傷、行動続行不可」

『了解。状況を終了します』

とたんにシステムが一気に落ちて目の前には何も映らないコックピットの壁が見えた。

シミュレーターのハッチが開き、中からよろよろなレインスボルフ大尉が出てきた。

「お疲れ様です、大尉」

研究員、名をオルトコーワ・コルディメータ技術少尉の手には袋があった。

「よく言う おえっ」

レインスボルフは強引に袋を奪い取り嘔吐した。

これが後に新人衛士の通過儀礼となるとは誰も知るよしもなかった。

「では大尉、率直な感想を」

「もつと揺れとかなんとかならんか」

「今のPC及び技術では到底無理かと」

「そうか……。なんとかしないと、ありゃ乗るたびに嘔吐しては脱水症になりかねん」

「ま、善処します」

「やれよ」

「しかし、十分なデータは取れました。本日はお疲れ様でした。ゆつくりお休みください」

「了解。お疲れ様」

レインスボルフはふらふらとした足取りでCPに向かった。

その後、酔ったレインスボルフは伝説となった。

本来のレインスボルフ大尉（前書き）

こんな感じですかね？

## 本来のレインスボルフ大尉

「撃ち方・・・てえっ!!」

ドドーン!

レインスボルフの掛け声と共に戦車が火を吹く。  
いわゆる演習と言っやつだ。

「状況報告!」

『両者目標撃墜!』

「第2派・・・てえっ!!」

ドドーン!

戦車を二台一組で、BETAのように行動が速い物にどうすれば当たるか、それを考えながら砲撃を行うと言ったものである。

「報告遅い!!」

『オルタ3のみ撃墜を確認!』

「オルタ4、帰れ」

できなければ戦力外、実戦では死を意味する。仲間さえ簡単に死ぬ。戦車はBETAには追い付けない。

帰れ、と言うのは午前中の演習が終わる時間までフル装備ランニング

を意味する。ちなみに今は9時30分で、大抵12時に終了する。

『お、オルタ4了解!』

「第3派・・・てえっ!!」

レインスボルフが小隊長を務める「オルタ小隊」。今はレインスボルフの功績も働いて人気、実力共にNo.1の隊である。

レインスボルフの豪快さ故か、【小隊内では丁寧語でOK】、【どうしようも無い時でも、自分と仲間を信じる】など階級にとらわれない規律や、哲学的な規律もあり、そのゆるさと超COOLだよあんな的な雰囲気は小隊の士気の高さ、レインスボルフに対する信頼も厚さにも影響を与えている。

端から見れば変な小隊では有るが、団結力はアメリカとも言われている。

オルタ小隊はalter native（代替）、《戦えない人々の替わりに、力を持って敵を迎え撃ち、未来を守る》という意味が込められている。

『目標の撃墜を確認!!』

「よし、これより状況を変える!全員戦車を廃棄!オルタ4も合流し、300秒以内にターゲットを全て破壊せよ!」

『了解!』

『全ての目標撃破!』

「13秒オーバーだ。今から戦車を回収し、演習場13周せよ。終わった者からCPに行つてよし」

『了解!』

「あとオルタ2、4、8は昼食後私のところに来るように、以上」

これが本来のレインスボルフである。

「大尉、今なんと言いましたか?」

「貴様らにも戦術機のテストパイロットをやってもらつ」

レインスボルフはオルタ4ことローガン・チエドヒ少尉とオルタ8ことニール・ドルフェン少尉に告げた。

「本当ですか!?!」



「ああ。最後は人類初の戦術機小隊となるんだ。その前に「何の変鉄もない」一般兵のデータが欲しいと技術部が言ってきたな」

強調された部分、つまり酔いにくい人間が乗るとどうなるかである。

「なるほどなるほど。では？」

若干興奮が押さえられないニールは尋ねる。

「貴様らは午後からシミュレーター室に来るように」

「やったぜ！」

「俺たちすげえよ！」

「以上だ。解散」

「失礼しました」

浮き足だつて退室する二人。

だが、彼らは小隊の他のメンバーが午後から自主鍛練になっていること（二人には口外法度とオルタ2こと、マーク・マッケンジー中尉に言つてある）と、揺れの酷さの事は知らされていない。

なので、当然二人は例の通過儀礼で体力的に限界近くまで削られ、そして平和な部隊を憎んだ。

その事を予測してか、二人が去つたレインスボルフの部屋から笑い声が聞こえてきたと言つ。

その後、ローガンとニールの二人は5日間を要して部隊に復帰した  
そうなの。

## 兵装談義（前書き）

F-4とか見てたらやっぱりF-1とかもあったのではないかと  
思っ

## 兵装談義

暇な時にしかレインスボルフは隊の面倒が見れない。

今は大半の時間を戦術機開発に取られているわけだが、シュミレーターが動き出すまではいつもハンガーにいる。

「だいぶ様になってきたでしょ？」

「この前はバラバラのパーツだったのにな・・・」

整備兵とレインスボルフ目の前には7割ほど完成した戦術機が立っていた。

「これが【F-1 ファントム】、未来への鍵です」

「もう名前決まっていたのか？なんだ、期待して損した」

「期待？」

「名前つけさせてもらえるかなって」

「却下です」

「即答かい！ったく・・・」

彼は一介の整備兵である。しかしレインスボルフに対して物怖じせず話している。

「誰だろうと相手を言い負かせられる男」の異名を持つクレメンテ・

バルディーフ整備兵。

この基地で彼と対等に渡り合えるのはこの整備兵しかない。

「ちなみに、つけれるとしたら、どんなのにする気だったんですか？」

「ん？そうだな・・・ガン ムってのはどうだ？」

「アホですか？」

「なんだと！？じゃあ・・・ウォークマン」

「それは音楽プレイヤーです」

「ぐうっ！・・・ライトニング」

「厨二乙」

「あーもう！わかったよ！俺の負けだ！」

「わかれば良いのです、わかれば」

「ぐぬぬ・・・」

こんなのは日常茶飯事である。

「で、あつちはなんだ？」

「戦術機の装備ですよ」

「ほお！」

「CIWS - 1 65式近接戦用短刀、S - 1 突撃砲 105m  
滑腔砲と20mm機関砲となっています」

とクレメンテは説明しながら設計図を近くの机の上に開く。

「CIWS - 1は独特な形をしているな」

「日本の『カタナ』という武装を真似してみました」

「なぜだ？レイピアやエストックとか、そんなんでもよかつたんじや無いのか？」

「人間サイズならいいでしょうけど、第一機関銃が効かない相手に突いても貫通しないと考えるのが妥当という点。コストパフォーマンスが低くしやすいという点。機体とのバランス、空気抵抗等をふまえるとあの形がベストという点。計三点の理由から『カタナ』という答えに結びつきました」

「なら、スパタとかでもよかつたんじゃ？」

「これからは戦術機が主流となる時代です。独自性のある形は量産には向きません。スマートかつ効率よく生産されなければいけません」

「なるほどなるほど」

「お分かりいただけましたか？」

レインスボルフは頷いた後、こう尋ねた。

「クレメンテ整備兵、そんな装備で大丈夫か？」

「大丈夫だ、問題ない。つて言いたい所ですが、こればかりはやってみないとなんとかも」

「ふむ、君が不安になるのは珍しいな。」

「当たり前じゃないですか。これまでに唯一通用したのは核ですよ？他の武装が通じるかわからないじゃないですか。不安にもなりま  
すよ」

「ま、そりゃそうだな……。おっと、そろそろ時間だ」

「そうですね。とっとと行きやがってください」

「おつよ。じゃなっ！」

レインスボルフはその場を後にした

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0568z/>

---

Muv-Luv Future of Struggles

2011年12月4日01時53分発行